

新年のご挨拶



労働者福祉中央協議会
会長 古賀 伸明

新年明けましておめでとうございます。格差と貧困が進む中、一部の層だけが富を享受し、社会の分断を推し進めるのか、それとも、社会の裾野に光を当てて包摂的な成長をめざすのか。私たちは大きな岐路に立っています。経済的効率の追求だけでなく、社会性や人と人との絆、協同の仕組みが組み込まれた公正な社会づくりは世界共通の課題です。こうした潮流を見据えて運動を進めていきたいと思えます。

中央労福協は、今年の4月からスタート



東京労働者福祉協議会
会長 大野 博

東京労福協に加盟する各団体および関係者の皆さま、明けましておめでとうございます。さて、今年は、4月から生活困窮者自立支援制度が始まります。生活困窮者の経済的困窮と社会的孤立からの脱却、貧困の連鎖の解消や、昨今社会問題化している孤立死の未然防止も視野に入れ、参加と自立を基本に自治体に対し、要請と協議、意見交換を行っていきます。生活保護基準は、すべての人の健康で文化的な最低限度の生活を保障するものでなければならず、就学

援助や地方税非課税基準などに連動し、また最低賃金決定の際に考慮されることになっており、切り下げの影響は被保護者にとどまるものではないことから、現行の水準を尊重すべきで、自治体に対し、国への要請と窓口の親切丁寧な対応を求めてまいります。東日本大震災などの被災地支援の活動をはじめ、あらゆる格差・貧困に立ち向かい、「連帯・協同・共生・支えあいの社会」に向け労働者自主福祉運動と協同組合連動・労働運動との連携が強固なものとなるよう前進しましょう。

する生活困窮者自立支援制度をより良いものにするなど地域・現場での問題解決と、貧困・格差の解消や「奨学金」問題など政策・制度改善、社会運動の両面から取り組んでいきます。

労働者自主福祉事業の基盤強化についても着実に前進させていくことが必要です。「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」をめざし、労働者自主福祉運動と労働運動との連携を強固なものにし、職場に、地域に、共助の輪を広げていきましょう！

地域に、共助の輪を広げていきましょう！

東京労福協にご協力頂いた皆様から
新年のメッセージが届きました。
ご紹介致しますと共に、
皆様への応援メッセージも
お待ちしております。



新年おめでとうございます。
昨年、豪雪から始まり大型台風の襲来、広島県の大規模土砂災害、御嶽山の噴火、長野県北部地震と災害の多い年でした。年末には、アベノミクス総選挙と銘打って訳のわからぬ選挙があり、国民生活は疲弊しています。働く者の支えとなるべく「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けた労福協運動を取り組んでまいりましたが、昨年の第49回東京労福協定期総会において会長職を退任いたしました。在職中は皆様ひとかたならぬお世話になり、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご厚誼の程よろしくお願ひ申し上げます。
前会長 遠藤 幸男



新年おめでとうございます。
昨年の定期総会をもって事務局長を退任いたしました。多くの仲間の皆様のお支えあってこそ大任を果たせることができました。心より感謝申し上げます。
なかなか先の見えない時代となっていますが、「福祉は一つ」で誕生した労福協運動が正しく理解され、次代に継承・発展されることを願っています。貧困格差で人々が孤立分断される社会から子どもが大切にされ長寿が喜ばれる社会へ、限りある期間ですが少しでもお役に立てるよう頑張ります。
前事務局長 大森 栄司

2014年12月8日 東京労福協 第52回定期総会報告



開会挨拶／池谷副会長
議長／連合東京・山本総務局副局長
来賓挨拶／中央労協・大塚事務局長
連合東京・大野会長
東京都産業労働局・小平課長
閉会挨拶／高須副会長

12月8日(月)、ホテルラングウッドにおいて、第52回定期総会を開催しました。池谷副会長の開会挨拶で始まり、議長には連合東京の山本総務局副局長を選出、遠藤会長の挨拶、来賓として中央労協・大塚事務局長、連合東京・大野会長、東京都産業労働局雇用就業部・小平課長から挨拶をいただき、議事に入りました。
2014年度活動報告(案)・会計報告・会計監査報告、2015年度活動方針・スローガン(案)、2015年度予算(案)の議案は、すべて全体の拍手で承認いただきました。続いて役員選挙委員会の伊野瀬副会長より提案された、遠藤会長・大森事務局長の退任にともなう役員補充(案)として、大野会長・杉浦副会長・須永事務局長の就任、大野新会長が提案した顧問の委嘱(案)についても満場致の拍手で承認されました。退任役員と新任役員挨拶の後、高須副会長の閉会挨拶で終了しました。



定期総会後の特別講演は、見城美枝子氏による「シニア世代を生きる」。TBSアナウンサーを経て、フリーの後、早稲田大学大学院理工学部で日本建築の研究を進め、現在青森大学社会学部教授として建築社会学・メディア文化論・環境保護論を講義されています。本人のエピソードを交えた話は大変興味深く、女性ながらの視点で鋭く優しく語りかける様に誰もが深く納得させられ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



あけましておめでとうございませう。
昨年の5団体セミナーでは、これまでの活動をお知らせ頂きさらなるご支援に感謝申し上げます。
震災から4年が過ぎようとしていますが今年から初めて築地場内への出荷がスタートし通信販売も開始しました。これもひとえに、みなさまのご支援による処理場建設が進んだことによるものですが、今後は、処理場・自宅・船・漁具などのローンを重なるために、なおいつそう美味しく安全な荒波牡蠣養殖に励み、多くの販売が成就できるように努力していきたいと存じます。
今後ともどうかよろしくお願ひいたします。
荒波牡蠣復活委員会
会長 石森 裕治



あけましておめでとうございませう。
昨年の貴団体総会では、講演の機会を頂きありがとうございました。
今年は未年。「未」には、食物が茂る。果実が熟すという意味があるそうです。実り多き年となりますように……
青森大学教授／モセイスト／ジャーナリスト
見城 美枝子



明けましておめでとうございませう。
舞台「イシノマキにいた時間」は初演から3年、全国16都市で上演させて頂き、昨年は延べ来場者数が1万人を突破致しました。これまで継続できましたのも、被災地の状況を役者が演じて伝え、応援する活動に当初より、ご理解とご支援を賜りました東京労福協様のお蔭と心より御礼申し上げます。
本年は、5月25日(土)27日、新宿の紀伊国屋ホールにて、東京では2年ぶりの上演を予定しております。震災を風化させぬよう我々も活動を続けて参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
復興支援舞台「イシノマキにいた時間」
製作委員会代表 石倉 美佐緒

東北復興支援舞台「イシノマキにいた時間」
<http://www.ishinomakitime.com/>

2015年度東京労福協役員名簿

役職名	氏名	所属団体名
会長	大野 博	連合東京
副会長	杉浦 賢次	連合東京
事務局長	池谷 匠	中央労働金庫東京都本部
事務局長次長	高須 則幸	全労済東京都本部
幹事	伊野瀬 十三	東京都生活協同組合連合会
	須永 謙治	連合東京
	加藤 保	中央労働金庫東京都本部
	荻野 里美	全労済東京都本部
	菅谷 知由	東京都労働組合連合会
	田村 和彦	中央労働金庫東京都本部
	小島 茂	全労済東京都本部
	竹内 誠	東京都生活協同組合連合会
	青木 美仁	(公財)東京労働者福祉厚生協会
	野口 三男	(財)東京労働者福祉基金協会
	岩崎 照明	(財)東京労働者福祉基金協会
	尾坂 敦史	日野市労働者福祉協議会
	宮崎 安基	東京高齢退職者団体連合会
	武田 真次	中央労働金庫東京都本部
	牧 英明	全労済東京都本部
顧問	天井 修	東京労働者福祉協議会
	遠藤 幸男	連合東京
	大森 栄司	連合東京
アドバイザー		

2014生活底上げ 福祉強化キャンペーンポスター (2014年11月)



東京国際労働事情研究会の 海外視察事業



平成26年度は、9月23日から28日(4泊6日)まで12名の団員により、インド共和国の視察事業を実施しました。日本との国交樹立60周年を経て強い親日感情に支えられながら友好関係を維持、BRICsの主要国でもあり、5月の総選挙においてインド人民党で改革派の異名を誇るナレンドラ・モディ氏が首相に就任、世界的な注目を浴びています。
29の州と7つの連邦直轄地で36の行政区があり、州の権限が大変強く、州を超えると国を超えるくらいのイメージで統治が変わる国ですが、人口は拡大を続け、国民所得水準も向上しており、下位中間層が急速に拡大して巨大な購買層にマーケットとしての期待が膨らみます。一方、行政の手続きは「レッドテープ」と呼ばれる体質のため、許認可に大変時間がかかり、十分とは言えないインフラ、人件費や不動産価格の上昇、複雑な税制など企業のインド進出における障壁は多い。モディ首相は「レッドテープ」の撤廃を約束し、日本企業専用の工業団地の開発も進み、日印共同の産業大動脈の開発構想もあります。カーブ制度による職業差別や身分格差の残る多様な国インドがどのような変貌を遂げるのか注視したい国です。

平成27年度東京都への政策・制度要請

12月19日(金)、東京都庁の会議室において、「平成27年度東京労働者福祉協議会および傘下事業団体の行う福祉事業活動への助成と協力に関する要請」を実施しました。

【東京労福協からの要請】

- 勤労市民のための福祉向上運動への支援
- 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた対応
- 東日本大震災に関する被災者支援や復興支援の見直しと継続
- 首都直下地震に対する諸施策の強化ならびに防災・減災諸施策の普及啓発
- 中小企業勤労者の福祉向上
- 格差貧困社会の是正や多重債務対策および自殺防止対策への取り組み強化
- 消費者行政の見直しや教育の充実
- 子育て支援や介護にかかわる支援策
- 生活保護制度の改善 など

【中央労働金庫東京都本部からの要請】

- 東京都中小企業従業員生活資金融資制度の利用促進・活用に向けた諸施策
- 東京都多重債務者生活再生提携融資制度の運営向けた支援

【全労済東京都本部からの要請】

- 都市型水害のさらなる対策および帰宅困難者対策

【東京都協連からの要請】

- 東京都防災計画を踏まえた首都直下地震等に備えるための対策強化
- 再生可能エネルギーの普及拡大の促進
- 少子高齢化に対応し誰もが安心して暮らされる東京のまちづくりの実現

それぞれの課題に対し、東京都の各局から回答がありました。

五団体セミナー

連合東京・中央労働金庫東京都本部・
全労済東京都本部・東京都生協連・
東京労福協

11月26日(水)、田町交通ビルにて「首都直下地震に備え、私たちにできること」をテーマとして開催したセミナーには、235人の参加者がありました。第1部は東京都総務局総合防災部事業調整担当課長・森永健二氏から、3.11における帰宅状況の分析とこれを踏まえた自助・共助の重要性、公助としての東京都の取り組みについて解説いただきました。第2部は「3.11を忘れない!」と題し、五団体のこれまでの支援活動と今後の活動計画について、各団体からDVDを活用した報告をいただきました。参加者からは、教訓を活かして今後の災害に備えることの重要性を改めて認識することができ、大変参考になったと好評を得ました。



労働者福祉東部ブロック協議会 第8期福祉リーダー塾

第8期福祉リーダー塾は、三島市の東レ総合研修センターで前半(6月20・21日)、後半(9月12・13日)、田町交通ビルで修了式(10月17日)を開催しました。今回のカリキュラムは、①労働運動と労働者福祉運動の理念と歴史、②労働組合・労福協とNPOの連帯と協働、③連帯経済の担い手としての協同組合へ、④ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオニズムへ、⑤労働金庫運動と全労済運動の基本方向と課題、⑥小論文作成のポイント等で、卒業生は30名でした。

「福祉リーダー塾」は、地域と職場で労働者福祉運動の新たな創造を担うリーダーの育成を目指して2006年に開設され、これまでの卒業生は187名、それぞれの学びを各職場で大いに発揮していると期待しています。引き続き開催予定の第9期福祉リーダー塾については、改めてご案内させていただきます。



カローリング大会を開催

9月20日(土)、東京メトロ深川総合運動場体育館において、72名(1チーム3名で24チーム)の参加者でカローリング大会を開催しました。昨年に続く2回目のカローリング大会で参加チームが多くなったため、予選は8組によるリーグ戦とし、各リーグの1位による決勝トーナメント戦方式で順位を決定しました。予選から決勝まで数々の熱戦が展開され、最終インングでの逆転劇もあるなど、カローリングの楽しさを実感できる大いに盛り上がった1日となりました。競技に対する関心も高まり、来年以降も継続してほしいとの声も聞こえてきました。



編集後記

大義なき総選挙、結果としておごり高ぶる安倍政権の安泰をもたらした。今年は羊年、「群れをなす羊は家族の安泰を示しいつまでも平和に暮らす」が干支の由来。アベノミスの行きつく先は、平和な暮らし・安心できる社会さえまで崩壊させる。嘆いてばかりもいられない、「福祉は一つ」の労福協、運動の真価が問われる年である。多くの仲間と連帯し、あたらしい明日へ、着実な一歩を進めたい。



〈中央ろうきん〉は
働く人の豊かな暮らしを
応援します

〈中央ろうきん〉では「低利融資の提供」をはじめ「家計見直し提案」や「計画的な貯蓄の提案」「相談会の開催(住宅ローン・資産運用等)」を会員・組合員の皆様の協力を得ながら実施しております。これらの活動を通して、はたらく皆様の生活を守り、より豊かにする福祉金融機関としての役割を発揮するべく、本年も職員一丸となって取組んでまいります。



ろうきんイメージモデル 高垣麗子

ZENROSAI NEWS



信頼のこころで築く。
安心を未来につなぐ。

保障のことなら
全労済 東京都本部
全国労働者共済生活協同組合(東京労働者共済生活協同組合)

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。